

発表内容まとめ

【1グループ】

- ・花火大会は、ドローンの映像がきれいだった。小学生の子どもたちが楽しんだことはとてもよかった。商工会議所のみなさんが一丸となって企画提案、実行し乗り越えた事例が次にまた生かされるのではないかな。
- ・コロナにより集まる機会が少なくなり困ってしまったが、港第23自治会では、助け合いができないかと考え、買い物支援を実施する。こういった状況を前向きに捉えて取り組んでいる。

(松下先生) みんなが「楽しむぞ」という気持ちになれば、様々なことができる。「みんなのために」という部分を強調してやるということが重要。

【2グループ】

- ・コロナ禍で黙食をしなければならない、イベントが減ったことで他の人とのふれあいができなくなってしまった。
- ・一方で新しいやり方で文化を伝えることができ、コロナ禍は、悪い面ばかりではないことが分かった。

【3グループ】

- ・現役世代の仕事について、デジタル化により仕事に対する取組が変わってきた。
- ・自己管理としてマスク・検温・手洗い・消毒などで体調管理ができて、この2年間風邪をひかなかった。
- ・人と会うことが非常に少なくなり、行動範囲も狭くなったが、Zoomで1人ひとりの表情がかえってよく見えるようになってきた。

(松下先生) 3密を防ぐ、Face to Faceはダメだと言っていて、他方つながりを作るということは非常に難しいが、Zoomのようなものを利用して表情までわかるという可能性が出てくる。

【4グループ】

- ・コロナ禍で困ったことは、移動の際にいつどこで感染するかわからない不安、訪問の仕事がやりにくくなり、仕事が減った。家にいることでゴミが増えるということ。
- ・コロナ禍で良かったことは、マスクをしているおかげで風邪をひかなくなったことや、手洗いうがいの習慣がついたこと。
- ・コロナ禍でできることは、地域の人と協力したり、SNSでつながり合ったりして、人と人で助け合っていくこと。

【5グループ】

- 学校の行事が行えなかったり、延期されたりする。
- 12月に1回コロナが落ち着いた時にグループで出かけたりしたが、コロナが落ち着いた時にしかできないことがあるから、事前準備しておくことによって、落ち着いた時にすぐに行えることとかもある。

【6グループ】

- 花火大会にみんな感謝、市内どこからでも見えて、大成功ではないか。
- 給食のときに黙食になったり、友達と食事ができなかつたりして辛い。
- 人との付き合いは酒宴が一番楽しい。そういうのも今はないので、コミュニケーション不足が辛い。
- どの世代でも、コミュニケーション不足に対して、以前に戻ってほしいというような願望をもっている。理想はコロナの前に戻ることだが、with コロナということで、これからは今行っているZoomなどのデジタルを活用することが必要。そのためには、若い方がご年配の方ともう少し交流をもてる環境ができれば、操作が大変なご年配の方も簡単にできて、デジタルの活用ももっと進むし、交流の中でご年配の方から学ぶこともできる。そういうことの全てが心身の健康につながる。
- デイサービスに足が運べない人がいるから市民サービスとして送迎サービスのようなものが必要でないか。
- 人と人との密は、今は避けなければならないが、心の密は大事

【7グループ】

- 花火大会については、多くの人の力が結集することでいろいろな制約を乗り越えて不可能が可能になった良い活動であった。
 - 非接触型のシステムが増えてきて、人と人とのコミュニケーションが希薄になってしまった。それにより社会のデジタル化が進んできたが、逆に高齢者などのデジタルに不慣れな方たちが取り残されつつあるという現状がある。
 - 人と人との訪問介護ができないということで、可能な限り接点をもっていくことが必要ではないか、それには最低限度の時間を決めてお互いに納得了解した上での接点をもっていく。会えない場合には、電話等で接点をもっていくことが大事。
 - 若い人から、若者の力をもっとつかってほしいというありがたい意見があった。そうした若い人たちに協力を得られるようなきっかけづくりや企画、フルに活躍してもらえようような場づくりが今後必要になってくるのではないかと思った。
- (松下先生) 若い人の方から自分たちの力を使ってくれという話がありましたよね。そこで大事なのは、話をちゃんと聞いてくれるということ。「そんなこと言っただけダメだよ」ではなく、ちゃんと耳を傾けてあげることで輪が広がっていく。

【8グループ】

- 花火については、焦点を子どもたちに当ててくれたことがすごく良かった。
- 学校の行事がどんどん減って、親として参加できるところに参加できなくなったため、先生の顔や同級生の顔、保護者の顔がよくわからない。
- 沖縄のことを一生懸命調べたのに修学旅行先が変更になり、ショックだった。
- 多くの行事が延期・中止となり、自分がプチ鬱になってしまい解消のために散歩を始めた。桜やいろんな小さな花たちがきれいだということを見つけられて良かった。
- 3歳の孫からご飯は黙って前を向いて食べましようと言われたのがショックだった。
- 女性の生理の貧困のニュースをきいて大変ショックだった。食糧支援で高校生や大学生はたくさん来てくれているが厳しい状況が続いていることを実感した。
- 県外に出られなくなって市内の色んなところを散歩することによって焼津市内の色々なところを見つけることができた。
- リモートに参加できる人が少なくて大変。みんなで勉強しよう。
- 食料支援など人が喜んでくれることを感じるのがうれしかった。またやっていきたい。
- ピンチはチャンスだ。これからの経験を活かして今後につなげたい。
- こんなに楽しくリモートで話し合いができるのはファシリテーターのおかげ。